

みんなで体を動かすって楽しい!

～フィルインの体操活動紹介～

生活介護事業所フィルインでは、定期的にボランティアの方にお越しいただき体操に取り組んでいます。職員や利用者、ボランティアの方に活動のきっかけや内容、感想などインタビューをしましたので、ご覧ください。



◇フィルイン五十嵐所長へのインタビュー◇



Q1: フィルインで体操を行うことになったきっかけ

利用者の皆さんと体を動かす機会がウォーキング位と限られていたため、天候に左右されず取り組める運動プログラムとして何か施設内で取り組めないか検討し、法人職員からボランティアの方の紹介を受けスタートしました。普段は高齢者の方向けの運動プログラムを提供されているという事で、比較的取り組みやすい内容という事と、外部の方をお招きしての活動はイベント的な要素もあり皆さん積極的に参加されていました。

Q2: 具体的にどのような体操をしていますか?

以前は事業所近くの健康文化センターをお借りして、希望者が参加するようにしていましたが、今は新型コロナウイルスの対策で、事業所内で運動を実施しています。50音を発音する口のストレッチ、下肢ストレッチ、肩甲骨を大きく動かすストレッチ、指先の運動などです。基本的には他者との距離を保ち、椅子に座った状態で行います。

Q3: 活動を行う中で皆さんの様子に変化はありますか?

いつも対応している職員ではない方が来てくださるので、皆さんにとってもよい刺激になっているようです。先生に注目して体操に参加されている姿は、普段の余暇活動で見せる表情とは違います。少し負荷のあるストレッチに難しい表情で取り組んだり、先生の言葉に反応して冗談を返す方もいて、フィルイン全体がとても明るい雰囲気に包まれます。

◇利用者の皆さんへインタビュー◇



Aさん: (何回もやっている) だいたい内容はわかっている。あれ(右手はグー、左手はパーにして、片手は胸、もう片方は前にする交互の動き)は、半分までならできただけだな。

Bさん: 大好き。うまくできない体操もあるけど、うまくできるものもある。きついものもある。

Cさん: 初参加でした。なかなか良かった。先生は優しいし、休憩もちゃんとあってよかった。

編集後記

特集記事の取材を通して、日々の支援の中で聞こえてくる利用者やご家族の声に丁寧に耳を傾けることを大切に、きめ細やかな支援を考え続けていきたいと感じました。(広報委員会)

◇ボランティアの方へインタビュー◇



Q1: ボランティア活動に参加するきっかけ

定年退職後の生きがいとして、地域のボランティア活動に参加をするようになりました。いろいろな活動をしている中で、余暇支援活動のサークルボランティアをすることになり、ティーボールサークルなどに参加していました。そこで当時の所長である宮原さんから、フィルインの余暇活動も協力してもらえないかと声をかけてもらいました。

Q2: 参加して、利用者に関わる際に意識していること

特別なことは意識していませんが、ある程度の関係性を持つことは必要だと思い、法人主催のイベントには顔を出して会う機会を意識的に増やしました。ただ、顔なじみになったとしても一定の距離は保つようになっています。

Q3: ボランティアに参加してよかったと思ったこと

体操は年齢に関係なく、体と向き合うものなので、良い機会をもらっていると思います。体についての勉強をするなど、励みになりますし、自分のためになります。そういった意味では、毎月実施など、定期開催の活動はありがたいです。

.....
インタビューにご協力頂きありがとうございました。

普段の職員ではない方に来ていただき、活動することは利用者の皆さんやボランティアの方にとっても楽しみになっていることがわかりました。(編集: 広報委員会)



活動の様子



ご寄付を頂きました

麻溝台近隣にお住いの内川様から、グリーンハウスにマスク20箱をご寄付いただきました。ご厚意に心より感謝申し上げます。

広報 すずらん

発行日: 2023年1月1日 (平成8年創刊)

発行元: 社会福祉法人すずらの会 理事長 松屋 直人 URL: <http://www.suzuran.or.jp>

所在地: 〒252-0328 神奈川県相模原市南区麻溝台7-6-4 TEL: 042-745-8080

編集: 広報委員会

第86号

2023年1月

年頭のご挨拶

明けましておめでとうございます。旧年中は、当法人の運営に対しまして、皆様方から多大なご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年も新型コロナに振り回された一年でした。6~8月には、多くの利用者の方々や職員が感染し、事業所の一時閉鎖や利用自粛等をお願いするなど、大変ご迷惑をお掛け致しましたこと、深くお詫び申し上げます。また、2カ所の事業所でクラスターの認定がなされましたが、比較的短期間で収束が図れたのは、一重に皆様のご協力の賜物と感謝申し上げます。残念なことに、昨年末からコロナ感染の第8波が襲来していますが、今年こそは、医療体制が整い、ウイズコロナで、インフルエンザ等と同様な対応で活動できる年になることを、祈念しています。

クリーンウォーク活動報告

2022年10月29日、さわやかな秋晴れの下、クリーンウォークを実施いたしました。クリーンウォークはコロナ禍でも実施できる取り組みということで、昨年度から始めたイベントです。昨年度は2事業所ずつ4回実施いたしましたが、今年度はすずらの会のイベントとして、全事業所同じ日程で企画することにいたしました。

企画するにあたり、自分たちの事業所の周辺をきれいにする、地域貢献という目標を意識しました。クリーンウォーク実施のルート等については各事業所が決め、参加者はすずらの会全体で実施していることを意識してもらえるようにすずらの会のロゴ入りのマスクを着けて参加しました。



地域清掃活動の様子

理事長 松屋 直人

さて、懸案の県道52号線の拡幅工事に伴うワークショップ・フレンド等の移転計画ですが、道路拡幅工事の遅れから、2023年度着工の計画が大幅に遅れることになりました。同時に計画していました他事業所の再整備も、見直しせざるを得ない状況になっていますが、いろいろ工夫してサービス提供環境整備に努めていきたいと思っています。

また、適切なサービスの提供に必要な職員の確保とスキルアップ等、改善すべき課題は多々ありますが、法人理念の誰もが地域の中で普通の生活が営めるよう、皆様のご協力を仰ぎながら、職員ともどもこれからもより良いサービス提供に日々努力して参る所存ですので、引き続きご支援とご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方の益々のご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。



イベント委員会 富田 康義

クリーンウォーク中に地域の方から「ご苦労様。」などの言葉をかけていただいたことや参加者からは「楽しかった。」「参加賞がもらえて嬉しい。」「街をきれいにできて気持ちがいい。」等の声があり、とてもやりがいのあるイベントとなっていると思います。



活動後の記念撮影

特集 進路選択の不安に寄り添う

～ワークセンターやまと保護者向け施設見学会・セミナーの取り組み～



この特集では、今年度からワークセンターやまとで定期的で開催している、高校生の保護者を対象としたセミナーの取り組みについてご紹介する中で、すすらんの会が目指すべき支援について考えます。

ワークセンターやまとで実施しているセミナーでは、福祉サービスの種類等の基礎知識や障害者雇用についての現状、また施設選びのポイント等について保護者向けに分かりやすくお伝えしています。

まず今回は、この保護者向け施設見学会・セミナーの取り組みや実施に至った経緯について、ワークセンターやまとの和賀所長にお話をうかがいました。



ワークセンターやまと 保護者向け施設見学会・セミナーの取り組み

Q 今年度からの取り組みとのことですが、このような取り組みを実施しようと思ったきっかけ・目的を教えてください。

ワークセンターやまとには毎年、高校生の保護者の方など、さまざまな見学者が来てくださるのですが、特に1年生の保護者の方だと『色々な施設があって迷う』『どんな場所が子どもに合っているのかわからない』『福祉サービスの違いがよく分からない』といった声を多く聞いてきたことがきっかけの一つとなりました。特別支援学校の高等部では、主に1年生の前期の早い段階で進路説明会が開催され、進路の一つとして福祉サービスの説明と地域の施設一覧の冊子が配布されます。また、夏季休暇のタイミングで施設見学をすすめられます。その際に何を決め手に見学を進めていけば良いのかが分からないという方もいらっしゃいます。そのため、やみくもに見学へ行くのではなく、見学へ行く前により具体的に明確な情報を伝える機会を作ることで、一人ひとりに合った将来への準備をスムーズに進めていける手助けができればと思い、このような取り組みを企画しました。

また、同じ法人内に児童の事業所(ばれっと)があることから、ばれっとの保護者向けのセミナーをどこかでやりたいという思いも以前から持っていました。児童～成人までの多世代を対象とした事業所があるすすらんの会だからこそ、事業所間で連携を取りながらできる支援を提供したいと考えていたこともきっかけの一つです。

Q 実際の施設見学会・セミナーの内容について、教えてください。

大きく分けて①施設内の案内(20～30分間)、②福祉サービス・障害者雇用についてのセミナー(約60分間)の2部構成になっています。①の施設案内では、施設内部の見学や、ビデオ等を使って実際の作業訓練の紹介等を中心に行っています。②のセミナーでは、福祉サービスの種類(就労移行支援、就労継続支援A型・B型、生活介護等)や、それぞれの特徴、また実際の事業所選びのポイントなどについてご説明をしています。また、障害者雇用については、雇用率や雇用条件のこと、一般企業と特例子会社の職場環境の違いなどを中心にお伝えしています。

Q セミナーにはどのくらいの申し込みがありましたか？ また、ご案内はどのようなルートで行いましたか？

2022年11月の時点で、全4回の開催(7月・9月・10月・12月)延べ19名の方の申し込みがあります。ご案内については、直接見学に来ていただいた方と、ばれっとの対象年齢の保護者に絞ってお声をかけさせていただきました。



Q 実際に参加された方からの声や反響にはどのようなものがありますか？

参加された方からは“具体的な福祉サービスの違いや様々な事業所の特色、事業所選びの注意点、障害者雇用の実情について、あまり聞いたことがない内容だった”“初めて聞いた内容で、良かった”といったお声をいただいております。お子さんの将来像について漠然とした不安を持っている方も多いため、このようなセミナーを通して少しでも役立つ情報が提供できればと思っています。

Q 今後の展望があれば、教えてください。

今回は、ワークセンターやまと独自の取り組みとして開催していますが、今後はすすらんの会の他事業所や法人全体でも、このような取り組みが広がっていけば良いのではないかと感じています。今回のセミナーでも、福祉事業所の視点で実際の現場から具体的な情報を届けることが、保護者の方にとっての安心へと繋がることを実感しました。また、参加された方から好評の声をいただいているため、ワークセンターやまとの取り組みとしても今後も継続していきたいです。

実際に見学会&セミナーに参加されたばれっとの保護者からの声

実際に参加されたばれっとの保護者お二人にもお話をうかがいました。



Q1: 実際に参加した感想は？

将来について、まさに何も分からない高校1年生の段階で今回のセミナーに参加することができて良かったです。学校ではそこまで詳しく教えてくれない部分についても、和賀さんがご自身の経験や考えを交えながら、正直にお話ししてくれたこともとても良かったです。また、チラシにあった『子どもの進路を考えているが、迷ってしまう・・・』『働くにはどんなことが必要?』といった文面も、まさに現在の自分の気持ちと同じでぜひ参加してみたいという気持ちになりました。

高校を卒業した後の進路について、とても具体的に教えていただくことができました。全体の説明だけでなく、個別の質問にも丁寧に対応していただけたことで安心しました。また、ワークセンターやまとの実際の作業の様子などもビデオを使って見せてもらったことで、どんなことをしているのか具体的なイメージをつかむことができました。

Q2: 特にどんな情報が役立ちましたか？

就労継続支援A型・B型の違い、一般企業への就労と特例子会社での就労の違いなど、詳しく知らなかった内容を知ることができて良かったです。特に障害者雇用については一度では理解しきれない部分もあったため、今後も機会があれば何でも聞きたい内容です。

事業所選びのポイントとして、詳しい情報を簡単に調べられるサイトを教えてもらえたり、福祉サービス・障害者雇用について実際の統計等を見ながら具体的に教えていただき、今後に役立つ情報を得ることができたと思います。



Q3: 今後、望むことがあれば教えてください。

普段利用している“ばれっと”と同じすすらんの会であるという点も安心感があり、参加がしやすかったです。今後も、ばれっとを通してさまざまな情報を提供していただけると嬉しいです。ワークセンターやまとのセミナーについても、ぜひ今後も定期的で開催していただきたいです。

やはりこれまで長く繋がってきた“ばれっと”と同じ法人の事業所であるという点は安心感があり、現在ワークセンターやまとも進路希望先の一つとして検討中です。ぜひ今後も継続してこのような機会を提供していただきたいです。



取材を通して、日々の支援の中で利用者や保護者の声に丁寧に耳を傾けることから始まった取り組みの一つだと知ることができました。保護者の方が求めるニーズに合った内容だったことが参加された方にとって満足度の高い結果に繋がったと考えられます。また、参加した方の声にもあるように、今回の取り組みは児童から成人まで幅広い世代の事業を展開するすすらんの会だからこそ、“同じ法人”という安心感を持って参加していただけた側面もあったように感じます。今後は、さらに各事業所の役割・専門性を生かしながら、それぞれのライフステージに合った支援、また、法人内で連携を取り合いながら“縦の繋がり”を意識した支援を提供していけると良いと思います。(編集: 広報委員会)